

看護者の時間外面会に対する判断基準の特徴

看護部 ○時久三紀子・松高早紀江
高知県立子鹿園 笹岡由美子・吉永紀香
高知県立中央病院 山本真利子・中村ささみ

I. はじめに

面会は、患者や家族にとって、家族の絆を深める場であり、社会との接点ともなる。看護者にとっても、家族看護の視点から面会は重要である。現在面会は、大部分の病院において管理上規制されているが、時と場合により面会の意味や意義は違ってくるため、時間外だからといって一方的に面会を断ることはできない。この場合の対応は、ほとんどが看護者個人の判断にまかされているため、その時の看護者の判断の違いにより、対応も異なってくる。このことは、同一レベルでの看護ケア・看護サービスの提供が困難となり、信頼関係の確立にも影響すると考えられる。そのため、看護者がどのような判断基準を重要ととらえ、時間外面会の対応を行っているのかを明らかにすることが必要であると考え、本研究に取り組んだ。

II. 研究方法

1. 調査期間：平成7年8月21日～8月31日
2. 対象：高知県に所在する400床以上の公立総合病院2施設の、看護助手を除く看護職員641名
3. 方法：調査用紙を各施設の同意を得て配布、回収
4. 調査内容：【時間外面会に対する看護者の判断基準13項目】・【対象者自身に関する10項目】・【面会の意義の認識8項目】・【家族ケアの重要性の認識8項目】について4段階・自己記載法により調査を行った。
今回、【対象者自身に関する項目】は、職種・職位の2項目に焦点をあてた。得点は、高いほど判断基準として用いる頻度が多く、重要性が高いことを示している。尚、ここで言う時間外面会とは、施設で決められた面会時間以外の面会のことを表す。

III. 結果

1. 対象者について

調査用紙は 641 名に配布し、回収数 556 名で、86.7%の回収率であった。対象者の平均年齢は 33.9 歳で職種と職位についての内分けは、図 1 のとおりである。

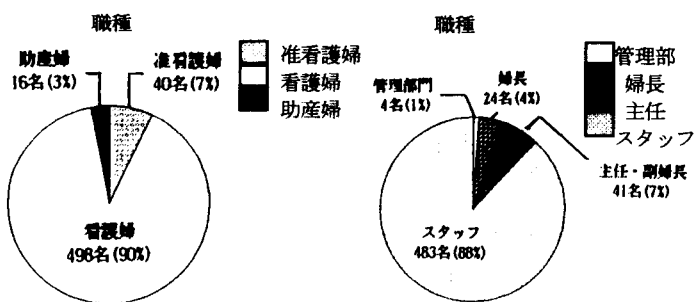


図 1 対象者

2. 時間外面会に対する看護者の判断基準 13 項目について

【時間外面会に対する看護者の判断基準 13 項目】の質問内容と得点を表 1 に示した。対象者全体で得点の高い順位を見ると、1 位「患者の病状や状態を考慮する」、2 位「面会者が遠方よりきた場合は考慮する」、3 位「家族の場合は考慮する」であった。

3. 職種と職位による比較

【時間外面会に対する看護者の判断基準 13 項目】の、総合平均得点について、職種と職位で比較した。職種別では看護婦の得点が一番高く、職位別においては婦長の得点が一番高くなっており、ともに有意差が認められた。(図 2)

【面会の意義の認識】の平均得点の職種や職位による比較では、有意差は認められず、職種や職位による面会の意義の認識の違いはなかった。(図 3)

【家族ケアの重要性の認識】の平均

表 1 判断基準 13 項目の順位と平均得点

順位	平均得点	質問事項
1 位	3.56	患者の病状や状態を考慮する
2 位	3.25	面会者が遠方より来た場合は考慮する
3 位	3.23	家族の場合は考慮する
4 位	3.18	面会者が面会時間を知らずに来た場合は考慮する
5 位	3.09	物を届けるだけの場合は考慮する
6 位	3.05	他の患者の迷惑にならない場合は考慮する
7 位	3.02	診察に差し支えなければ考慮する
8 位	2.99	面会者が少ない場合は考慮する
9 位	2.97	看護業務に差し支えなければ考慮する
10 位	2.91	患者が長期入院の場合は考慮する
11 位	2.89	入院当日であれば考慮する
12 位	2.87	出勤時間、昼休み、仕事帰り等の時間的都合を考慮する
13 位	2.61	面会者の年齢により考慮する
総合平均得点		39.70

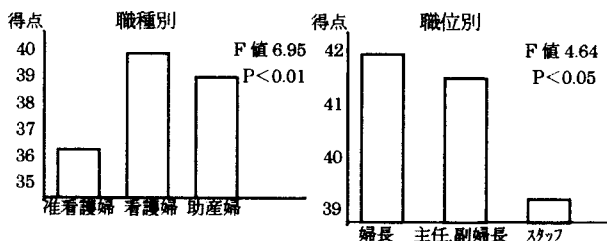


図 2 判断基準 13 項目の総合平均得点

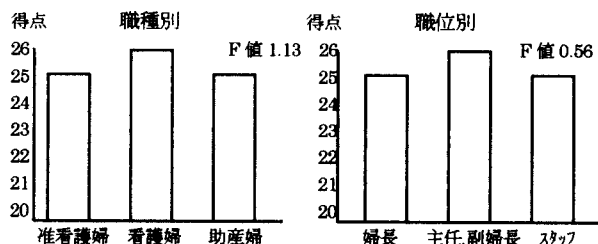


図 3 面会の意義の認識の平均得点

得点の職種別の比較では、得点に有意差は認められない。職位別の比較では、婦長、主任・副婦長、スタッフの順で得点が高く、有意差が認められた。(図4)

表2は、【時間外面会に対する看護者の判断基準13項目】の総合得点と【面会の意義の認識】及び【家族ケアの重要性の認識】の相関係数である。

【面会の意義の認識】の職位による比較では、婦長は $r = 0.501$ でかなりの相関が認められた。同じように、【家族ケアの重要性の認識】の職位による比較では、婦長は、 $r = 0.796$ で強い相関が認められた。

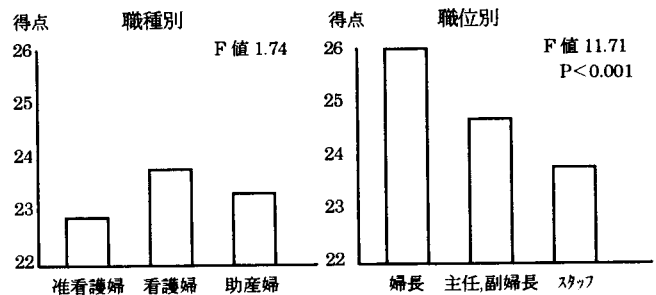


図4 家族ケアの重要性の認識の平均得点

表2 判断基準13項目の総合得点との相関係数

	婦長	主任・副婦長	スタッフ
面会の意義	0.501*	0.320	0.275***
家族ケアの認識	0.796***	0.258	0.143**

* $P < 0.05$ ** $P < 0.01$ *** $P < 0.001$

以上、この調査結果から、時間外面会に

対しては、1. 看護者は患者の病状や状態、面会者の距離的な条件、面会者が家族であるかどうかなどを、判断基準として多い頻度で用いている。2. 看護者の判断基準は、職種により違いがあり、看護婦、助産婦、准看護婦の順で、幅ひろい判断基準を持っている。3. 看護者の判断基準は、職位により違いがあり、婦長、主任・副婦長、スタッフの順で、幅ひろい判断基準を持っている、ということが明らかになった。

IV. 考察

小川によると、面会がメリットになるかデメリットになるかは、「その患者のその日の状況」と、「面会人がだれかということ」で左右されると言われている。私たちの調査結果からも、「患者の病状や状態を考慮する」が1位、「家族の場合は考慮する」が3位であり、小川の項目と一致している。2位は、「面会者が遠方より来た場合は考慮する」、となっているが、これは対象施設が高知県のほぼ中央に位置している基幹病院で、患者の居住範囲は県内全域にわたっており、対象の施設まで自家用車でも3~4時間かかる交通事情などを考えると、高い頻度で面会者の距離的条件を考慮することも納得ができる結果である。

職種による判断基準の比較では、看護婦、助産婦、准看護婦の順で高くなっていた。准看護婦は、看護婦の指示のもとに業務を行う立場にあるため、時間外面会という判断を要求される状況において、違いがあらわれるのではないかと思われる。また、助産婦

の場合は、出産の際には、健康な妊産婦も看護の対象となる。看護の対象の違いが、看護婦と助産婦の判断基準の違いにつながるのではないかと考える。

沖西¹⁾は、婦長の役割について、「医療の質保証という組織の目的を達成するため、患者サービスに必要とされるものが何であるかを常に判断し、看護の機能を調整することである。」と述べている。職位による判断基準の違いは、婦長が時間外面会という看護場面においても看護サービスという視点でとらえ、常に何が重要で、何が求められているかをアセスメントしている結果ではないだろうか。

V. おわりに

この研究により、看護者の時間外面会に対する判断基準の特徴として、以下のことが明らかになった。

1. 患者や面会者の立場を判断基準として重要視している。
2. 判断基準は職種、職位により違いがあり、婦長、看護婦が幅広い判断基準を持っている。
3. 同一レベルで時間外面会の対応が出来ることが重要である。

この結果をもとに、同一レベルで時間外面会時の対応ができるように、各病棟で時間外面会に対する対応について検討していきたいと思う。

引用・参考文献

- 1) 沖西喜代美：厚生年金病院における婦長のための教育，看護展望 20(1)，1995.
- 2) 小川圭子：面会は許可してあげるものなのか，看護学雑誌 48(11)，P1212-1213，1984.
- 3) 桐野里見：気持ちよく面会できるための時間と対応を考える，看護の研究 23，1991.
- 4) 佐藤紀子：エキスパート論序説，ナースステーション 20(2)，1990.
- 5) 平田明美：マネージメントをさわやかに，Nursing Today 4，1996.

〔平成 8 年 9 月 7 日～8 日，千葉市にて開催の第 3 回家族看護学会
学術集会で発表〕